



IM and Presence Service の設定

- [IM and Presence 予定表統合のタスクフロー \(1 ページ\)](#)

IM and Presence 予定表統合のタスクフロー

IM and Presence Service で次のタスクを完了し、次の Microsoft 展開のいずれかに対して Microsoft Outlook との予定表統合をセットアップします。

- オンプレミス Microsoft Exchange Server
- ホスト型 Microsoft Office 365 サーバー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	プレゼンスゲートウェイの設定 (2 ページ)	IM and Presence サーバーで、Exchange Server または Office 365 サーバーをプレゼンスゲートウェイとして設定します。
ステップ 2	Office 365 統合のプル間隔の設定 (4 ページ)	(Office 365 のみ) IM and Presence Service が Office 365 から予定表情報をプルする間隔のスケジュールを設定します。デフォルト値は 60 分です。
ステップ 3	Exchange 統合のサービスパラメータの設定 (5 ページ)	(Exchange のみ) Microsoft Exchange Server との予定表同期におけるやり取りの要点を表すオプションのサービスパラメータを設定します。
ステップ 4	Cisco Presence Engine の再起動 (7 ページ)	サービスパラメータを編集した場合は、Cisco Presence Engine サービスを再起動します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<p>次のいずれかの手順を使用して、ユーザーの予定表を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LDAP 同期ユーザーの予定表の有効化 (7 ページ) • 予定表統合の一括有効化 (9 ページ) • ユーザーごとの予定表統合の有効化 (10 ページ) 	<p>ニーズに合った手順を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LDAP 同期をまだ完了していない場合は、LDAP 同期を介して予定表を有効にします。 • それ以外の場合は、一括管理ツールを使用して、多数のユーザーの予定表を設定します。 • または、ユーザーごとに機能を有効にします。

プレゼンスゲートウェイの設定

この手順を使用して、Microsoft Outlook との予定表統合をセットアップするためにプレゼンスゲートウェイを設定します。Microsoft Exchange Server または Office 365 サーバーのいずれかをプレゼンスゲートウェイとして割り当てることができます。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、以下を選択[**プレゼンス (Presence)**] > [**ゲートウェイ (Gateways)**] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [プレゼンスゲートウェイタイプ (Presence Gateway Type)] フィールドで、次のオプションのいずれかを選択します。
- オンプレミスの Exchange Server と統合する場合は、[Exchange -- EWS サーバー (Exchange -- EWS Server)] を選択します。
 - ホスト型 Office 365 サーバーと統合する場合は、[Office 365 サーバー (Office 365 Server)] を選択します。

[Office 365 サーバー (Office 365 Server)] を選択した場合は、[基本 (Basic)] または [OAuth] を選択して、ドロップダウンリストから [認証タイプ (Authentication Type)] を選択する必要があります。

(注) [アプリケーション (クライアント) ID (Application (client) ID)]、[ディレクトリ (テナント) ID (Directory (tenant) ID)]、[クライアントシークレット (Client Secret)] のフィールドは、[認証タイプ (Authentication Type)] として [OAuth] を選択した場合にのみ適用されます。

[アプリケーション (クライアント) ID (Application (client) ID)]、[ディレクトリ (テナント) ID (Directory (tenant) ID)]、[クライアントシークレット (Client Secret)] のフィールド

ドを設定し、アプリケーションのアクセス許可の設定と管理者の同意の付与を行う方法については、セクション [認証タイプ OAuth の Office 365 事前構成 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

- ステップ 4** [説明 (Description)] フィールドに、プレゼンスゲートウェイ インスタンスを区別するのに役立つ説明を入力します。
- ステップ 5** [プレゼンスゲートウェイ (Presence Gateway)] フィールドに、プレゼンスゲートウェイ サーバーの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを入力します。この値は、サーバー証明書の [サブジェクトの共通名 (CN) (Subject Common Name (CN))] または [サブジェクトの別名 (Subject Alternate Name)] フィールドに表示されるサーバーアドレスと一致する必要があります。
- ステップ 6** [アカウント名 (Account Name)] フィールドに、サーバーにアクセスするためのアカウントの名前を入力します。
- ステップ 7** [アカウントパスワード (Account Password)] フィールドと [パスワードの確認 (Confirm Password)] フィールドの両方に、アカウントがサーバーへのアクセスに使用するパスワードを入力します。
- ステップ 8** [プレゼンスゲートウェイタイプ (Presence Gateway Type)] が [Office 365 サーバー (Office 365 Server)] で、IM and Presence Service が Office 365 サーバーにアクセスできない場合は、[HTTP/HTTPS プロキシ URL (HTTP/HTTPS Proxy URL)] フィールドで、HTTP/HTTPS プロキシサーバーの詳細を割り当てます。
- ステップ 9** [HTTP/HTTPS プロキシユーザー名 (HTTP/HTTPS Proxy Username)] フィールドに、プロキシサーバーのユーザー名を入力します。
- ステップ 10** [HTTP/HTTPS プロキシパスワード (HTTP/HTTPS Proxy Password)] フィールドに、HTTP/HTTPS プロキシサーバーに指定されたユーザー名のパスワードを入力します。
- ステップ 11** [プレゼンスゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウでその他のフィールドを設定します。フィールドと設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 12** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

Microsoft 統合タイプの任意のパラメータを設定できます。

- [Office 365 統合のプル間隔の設定 \(4 ページ\)](#)
- [Exchange 統合のサービスパラメータの設定 \(5 ページ\)](#)

認証タイプ OAuth の Office 365 事前構成

この手順を使用して、プレゼンスゲートウェイの認証タイプを OAuth として設定します。

アプリケーション (クライアント) ID、ディレクトリ (テナント) ID、クライアントシークレットを取得し、アプリケーションのアクセス許可を設定し、Microsoft Azure ポータルから管理者の同意を付与する手順に記載されている手順に従う必要があります。

手順

-
- ステップ 1** <https://portal.azure.com> から Microsoft Azure Portal にログインします。
- ステップ 2** <https://docs.microsoft.com/en-gb/azure/active-directory/develop/quickstart-register-app#register-a-new-application-using-the-azure-portal> の手順に従って、新しいアプリケーションを登録し、アプリケーション (クライアント) ID とディレクトリ (テナント) ID を取得します。
- ステップ 3** クライアントシークレットを作成するには、[管理 (Manage)] で、[証明書とシークレット (Certificates & Secrets)] > [新しいクライアントシークレット (New Client Secret)] をクリックします。
- (注) [プレゼンスゲートウェイタイプ (Presence Gateway Type)] を [Office 365サーバー (Office 365 Server)] として選択し、[認証タイプ (Authentication Type)] を [OAuth] として選択する場合は、同じ値を使用して、プレゼンスゲートウェイの設定中に IM and Presence のアプリケーション (クライアント) ID、ディレクトリ (テナント) ID、クライアントシークレットのフィールドを設定します。
- ステップ 4** [管理 (Manage)] > [API のアクセス許可 (API Permissions)] > [アクセス許可の追加 (Add a permission)] の順にクリックし、[組織が使用する API (APIs my organization uses)] で [Office 365 Exchange Online] を選択します。
- ステップ 5** アプリケーションの権限を追加するには、[アプリケーションの権限 (Application permissions)] > [権限 (Permission)] の順に選択し、[full_access_as_app] チェックボックスをオンにし、[権限を追加 (Add permissions)] をクリックします。
- ステップ 6** 管理者の同意を与えるには、[管理 (Manage)] > [API のアクセス許可 (API Permissions)] をクリックします。
- ステップ 7** [同意の付与 (Grant admin consent)] で、「登録済み Azure Active Directory」の [管理者の同意を付与 (Grant admin consent)] をクリックし、[はい (Yes)] を選択します。
- ステップ 8** [full_access_as_app] 権限の [ステータス (Status)] 列に緑色のチェックマークがあるかどうかを確認します。
-

Office 365 統合のプル間隔の設定

この手順を使用して、IM and Presence Service が Office 365 から予定表情報をプルする間隔を設定します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバー (Server)] ドロップダウンリストから、[IM and Presence Serviceパブリッシャ (IM and Presence Service Publisher)] ノードを選択します。

- ステップ3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco Presence Engine] を選択します。
- ステップ4 **Office 365 Calendar Information Pull Interval** サービスパラメータの間隔を分単位で設定します。デフォルトは 60 分です。
- ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。



- (注) IM and Presence Service は、**Office 365 Calendar Information Pull Interval** サービスパラメータでスケジュール指定された間隔で Office 365 から情報をプルします (デフォルト値は 60 分)。ただし、Office 365 から IM and Presence Service に情報をプッシュするメカニズムはありません。その結果、スケジュールされたプルの際に Office 365 でスケジュールされていないプレゼンスの更新 (臨時会議など) が発生した場合、次のスケジュールされたプルの後まで、結果は IM and Presence Service に登録されません。

次のタスク

IM and Presence Service ユーザーの予定表を有効にします。多数のユーザーに対してこの機能を一度に有効にするには、外部LDAPディレクトリから同期されるユーザーに対してLDAP同期を使用するか、非LDAPユーザーに対して一括管理ツールを使用します。それ以外の場合は、ユーザーに対して個別に機能を有効にすることができます。

- [LDAP 同期ユーザーの予定表の有効化 \(7 ページ\)](#)
- [予定表統合の一括有効化 \(9 ページ\)](#)
- [ユーザーごとの予定表統合の有効化 \(10 ページ\)](#)

Exchange 統合のサービスパラメータの設定

この任意の手順を使用して、Outlook の予定表を Microsoft Exchange Server と統合するためのオプションのサービスパラメータを構成します。多くのパラメータはデフォルト値で十分です。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ2 [サーバー (Server)] ドロップダウンリストから、[IM and Presence Serviceパブリッシャー (IM and Presence Service Publisher)] ノードを選択します。
- ステップ3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco Presence Engine] を選択します。
- ステップ4 [予定表の設定 (Calendaring Configuration)] で、次のパラメータの値を設定します。

表 1: Exchange 統合のサービスパラメータ

サービス パラメータ	説明
Microsoft Exchange 通知ポート (Microsoft Exchange Notification Port)	Presence Engine が Exchange Server からの着信通知をリッスンするポート番号。WebDav には UDP が使用され、EWS (Exchange Web サービス) には TCP が使用されます。可能な値は 1024 ~ 65535 で、デフォルト値は 50020 です。
秒単位の予定表スレッド (Calendar Spread (seconds))	このパラメータは、継続時間の範囲を秒単位で指定します。各ユーザーには、ハッシュによってオフセット期間が割り当てられます。期間は、会議の移行が送信される最上位からの秒数を決定します。ユーザー数が少ない場合は、期間を短縮できます (およそのユーザー数/100 = 秒)。WebDav および EWS (Exchange Web サービス) に使用されます。値の範囲は 0 ~ 59 で、デフォルト値は 50 秒です。
Exchange タイムアウト (秒) (Exchange Timeout (seconds))	このパラメータは、Exchange Server に対するリクエストがタイムアウトするまでの秒単位の時間を指定します。この変更には、Cisco Presence Engine の再起動が必要です。可能な値の範囲は 1 ~ 20 で、デフォルト値は 3 秒です。
Exchange キュー (Exchange Queue)	このパラメータは、Exchange 要求キューの最大長を指定します。要求が行われ、キューの長さを超えた場合、要求は失敗し、回復手順が開始されます。この変更には、Cisco Presence Engine の再起動が必要です。可能な値は 1 ~ 5000 で、デフォルト値は 2200 です。
スレッドの交換 (Exchange Threads)	このパラメータは、Exchange 要求を処理するために使用されるスレッドの数を指定します。ユーザー数が多い場合 (5000 人など)、または一部の Exchange トランザクションに 3 秒以上かかる場合は、この値を増やすことができます。予定表の統合が無効になっている場合は、このパラメータを 1 に設定します。この変更には、Cisco Presence Engine の再起動が必要です。可能な値は 1 ~ 100 で、デフォルト値は 60 です。
EWS ステータスの頻度 (分) (EWS Status Frequency (minutes))	このパラメータは、EWS (Exchange Web サービス) が使用されているときに、通知メッセージが Exchange Server から送信される頻度を指定します。時間は分単位です。可能な値は 10 ~ 1440 で、デフォルト値は 60 です。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[Cisco Presence Engine の再起動 \(7 ページ\)](#)

Cisco Presence Engine の再起動

Calendaring Configuration サービスパラメーターのいずれかの値を変更した場合は、Cisco Presence Engine サービスを再起動します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified IM and Presence Serviceability から、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)] > を選択します。
- ステップ 2 [サーバー (Server)] ドロップダウンリストボックスから、IM and Presence サーバーを選択して、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 [IM and Presence Service] で、[Cisco Presence Engine] を選択して、[再起動 (Restart)] をクリックします。

次のタスク

IM and Presence Service ユーザーの予定表を有効にします。一度に多数のユーザーに対してこの機能を有効にするには、ユーザーが外部 LDAP ディレクトリから同期されている場合は LDAP 同期を使用し、非 LDAP ユーザーの場合は一括管理ツールを使用します。それ以外の場合は、ユーザーに対して個別に機能を有効にすることができます。

- [LDAP 同期ユーザーの予定表の有効化 \(7 ページ\)](#)
- [予定表統合の一括有効化 \(9 ページ\)](#)
- [ユーザーごとの予定表統合の有効化 \(10 ページ\)](#)

LDAP 同期ユーザーの予定表の有効化

これらのタスクを完了して、最初の LDAP ディレクトリ同期を介して予定表を有効にします。初期 LDAP 同期を使用して、LDAP ディレクトリから同期されたユーザーの予定表を有効にすることができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	機能グループテンプレートへの予定表統合の追加 (8 ページ)	機能グループテンプレートに予定表を割り当てます。
ステップ 2	LDAP ディレクトリ同期への機能グループテンプレートの追加 (8 ページ)	予定表が有効な機能グループテンプレートを LDAP ディレクトリ同期に割り当て、同期を完了します。

機能グループテンプレートへの予定表統合の追加

この手順を使用して、Microsoft Outlook 予定表統合を機能グループテンプレートに割り当てます。テンプレートを使用して、LDAPディレクトリから同期されたすべてのユーザーの Outlook 予定表統合を構成できます。



- (注) まだ同期されていない LDAP ディレクトリの機能グループテンプレート設定のみを追加または編集できます。ディレクトリがすでに同期されている場合は、代わりに [予定表統合の一括有効化 \(9 ページ\)](#) を使用します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ電話/追加 (User Phone/Add)] > [機能グループテンプレート (Feature Group Template)] の順に選択します。
- ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいテンプレートを作成します。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存のテンプレートを選択します。
- ステップ 3 [Unified CM IM and Presence でのユーザーの有効化 (Enable User for Unified CM IM and Presence)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 [プレゼンスに会議情報を含める (Include meeting information in Presence)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [機能グループテンプレート (Feature Group Template)] の設定ウィンドウの残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[LDAP ディレクトリ同期への機能グループテンプレートの追加 \(8 ページ\)](#)

LDAP ディレクトリ同期への機能グループテンプレートの追加

この手順を使用して、作成した予定表対応の機能グループテンプレートを LDAP ディレクトリ同期に割り当てます。これにより、この LDAP ディレクトリから同期されたすべてのユーザーに対して Outlook 予定表の統合を有効にすることができます。



- (注) 機能グループテンプレートは、まだ同期されていない LDAP ディレクトリにのみ追加できます。ディレクトリがすでに同期されている場合は、代わりに [予定表統合の一括有効化 \(9 ページ\)](#) を使用します。

始める前に

[機能グループテンプレートへの予定表統合の追加 \(8 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で、[System (システム)] > [LDAP] > [LDAP Directory (LDAP ディレクトリ)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、既存の LDAP ディレクトリを選択します。
- ステップ 3 [機能グループテンプレート (Feature Group Template)] ドロップダウンリストボックスから、前のタスクで作成した機能グループテンプレートを選択します。
- ステップ 4 [LDAPディレクトリ (LDAP Directory)] ウィンドウで残りのフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 [完全同期を今すぐ実施 (Perform Full Sync Now)] をクリックします。

予定表統合の一括有効化

一括管理を使用して、1回の操作で多数のユーザーの予定表統合を有効にします。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager ノードで、[Cisco Unified CM Administration] ユーザーインターフェイスにログインします。
- ステップ 2 予定表統合を一括有効化は、次のウィンドウから実行できます。
 - a) [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザー (Users)] > [ユーザーの挿入 (Insert Users)]
 - b) [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザー (Users)] > [ユーザーの更新 (Update Users)] > [クエリー (Query)]
 - c) [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザー (Users)] > [ユーザーの更新 (Update Users)] > [カスタムファイル (Custom File)]

- (注) 更新のさまざまなオプションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド』を参照してください。

ステップ 3 予定表統合を有効にするすべてのエンドユーザーについて、次のエンドユーザー設定オプションがオンになっていることを確認してください。

- [Unified CM IM and Presence のユーザーを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]
- [プレゼンスに会議情報を含める (Include meeting information in Presence)]

ステップ 4 csv ファイルから更新する場合は、適切な [ユーザー (User)] 領域で [ファイル名 (File Name)] を選択します。

(注) 正しいファイル形式の [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] をクリックします。

ステップ 5 [今すぐ実行 (Run Immediately)] または [後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。

ユーザーごとの予定表統合の有効化

この手順を使用して、IM and Presence Service ユーザーの予定表統合を有効にします。

手順

ステップ 1 **Cisco Unified CM Administration** のユーザーインターフェイスにログインします。

ステップ 2 [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザー (End User)] の順に選択します。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックしてエンドユーザーを選択します。

ステップ 4 [Unified CM IM and Presence でのユーザーの有効化 (Enable User for Unified CM IM and Presence)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [プレゼンスに会議情報を含める (Include meeting information in Presence)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。